

住宅火災を防ぎましょう

こんろからの出火にご注意を

こんろにかけた天ぷら鍋の放置や魚焼グリルに付着した油などは出火の原因になります。こんろを使うときは次のことを心掛けましょう。



- 電話や来客などで少しの間でもこんろから離れるときは、必ず火を消す。
- こんろの周りには、燃えやすいものを置かないようにする。
- 魚焼グリルは、油の付着がないか使用前に確認する。

電気ストーブにご注意を

ストーブが原因による火災は、過去5年間で22件発生していて、そのうち電気ストーブによる火災が13件で、約59%を占めています。電気ストーブは裸



火を使っていないという安心感などで、使用者の注意不足による火災が多く発生しています。

まだまだ寒い日が続きますので、電気ストーブの取り扱いには十分注意しましょう。

リコール製品の確認を

リコールとは、製造・輸入業者が、製品や車両などに製造上または設計上の不具合(欠陥部品が使用されているなど)があったことにより交換・点検・修理などを呼び掛けることで、新聞やホームページなどを通じて告知されます。リコール製品を使用し続けた場合、火災が発生することがありますので、該当製品をお持ちの場合は、すぐに使用を中止し、交換、点検、修理等の内容を確認しましょう。なお、リコール製品の情報は、消費者庁のホームページなどで確認できます。

消費者庁リコール情報サイト

HP 消費者庁リコール 検索

経済産業省製品安全ガイド

HP 製品安全ガイド 検索

住宅用火災警報器はきちんと作動しますか？

平成20年6月から住宅への住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。住宅用火災警報器は、いち早く火災に気付くための重要な機器です。「いざ」という時にきちんと作動するよう、日頃から適切に維持管理しましょう。

住宅用火災警報器が汚れていたら

住宅用火災警報器にほこりが付くと、火災を感知しにくくなります。汚れが目立ったら、乾いた布で拭き取りましょう。

定期的に点検を

住宅用火災警報器がきちんと作動するか確認しましょう。住宅用火災警報器本体から下がっているひもを引く、あるいはボタンを押すなどして、作動するかどうか点検しましょう。音が鳴らない場合は、電池切れや故障が考えられま

すので、取扱説明書を確認するか、販売店などに相談しましょう。

交換時期の確認を

住宅用火災警報器の寿命はおおむね10年程度です。設置後10年を目安に本体を交換しましょう。

正しく使って火災を防ごう！

